



SANJO ROTARY CLUB

三条ロータリークラブ

2008.11.12 (No.2525)
週報 No. 18

第2560地区ガバナー／馬場信彦
会 長／中村和彦
会長エレクト／菊池 渉(クラブ奉仕A)
副 会 長／樺山 仁(クラブ奉仕B)
幹 事／石月良典
S A A／明田川賢一
会 計／杉山幸英

例会日／毎週水曜日12:30～
例会場及び事務局／
三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内
例会場／TEL 34-3311
事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail : sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
(“はshiftを押しながら“へ”のキーを
押してください)

■本日の出席会員数:59名中40名
■先々週出席率:87.71%

【ゲスト】

・ロータリー財団国際親善奨学生
山岸早瀬さん

【ヴィジター】

三条東RCより
・本多昭一さん

【先週のメイクアップ】

[11.6] 三条東RCへ
・高森章仁さん



「夢をかたちに」

2008～2009年度国際ロータリーのテーマ



パンジー

会長挨拶

中村和彦 会長

物価でみる「江戸の暮らし」

文中では特に断りのない限り、仮に現代の金額に換算する場合、わかりやすく

1文=約30円、

1両=銀60匁^{しんめ}=4000文=約12万円と
している。



大工の熊さん一家の年間の収支を拝見

まず、江戸庶民を代表して、長屋に住むある大工さん一家(ここでは仮に「大工の熊さん一家」と名付けておく)の1年の生計費を紹介しよう。

当時の随筆「文政年間漫録」を見ると、その暮らしぶりをうかがい知ることができる。

熊さんは妻と子供1人の3人家族

大工の賃金は上方風に銀立てで払われる。熊さんの日払いの日給は5匁4分、文政期頃の交換比率だと銀1匁=108文なので、つまり583文、現代の金額では約1万7,500円になる。

正月や雨天などで働けない日を60日とすると、熊さんの年収は次表のように514万円程度。

表1) 大工の1年間の生計費

収入	銀1貫目587匁6分	約514.4万円	
支出	家賃(4畳半2間)	銀120匁	約38.9万円
	食費(米代)	354匁	約114.7万円
	副食・光熱費(みそ・薪)	700匁	約226.8万円
	住居費(道具・家具代)	120匁	約38.9万円
	衣服代	120匁	約38.9万円
	交際費(慶弔費)	120匁	約38.9万円
	支出計	銀1貫534匁	約487万円
繰越金(予備金)	銀53匁6分	約17.4万円	

(『文政年間漫録』による)

※表1では、銀1匁を文政期頃の江戸の交換比率108文に換算。

また1文は30匁に換算。

※『文政年間漫録』…文政年間(1818~30)の都市と農村の生活、逸話や話題を集めた見聞録。栗原柳庵著。

大工は職人の中でも比較的収入の高い職業だったので、住まいは長屋でも少し広めの三軒長屋、四軒長屋などに暮らした。

熊さんの住まいは、4畳半2間ほどの広さで家賃は月約3万2,400円。

年間の収支は表1の通りだが、熊さん一家の場合、店賃(家賃)が全支出の8%程度と低めで、食費と光熱費が高い割合を占めている。

最低限の支出だけで、全体の3/4を占めてしまうので、熊さん一家の生活は決して余裕があるものとはいえなかった。

表2) 江戸っ子になじみの物価の一例

そば代	16文(江戸後期)
湯屋(銭湯)	大人10文、子供6文(江戸後期)
手習い ※1	年間約1両1分~1000文
ちよきぶね 猪牙船 ※2	2匁 (江戸前期、小石川・牛込あたり~浅草・山野堀まで)
かご籠	金二朱あるいは銭800文 (江戸後期、日本橋~吉原まで)

参考資料:『数字で読むおもしろ日本史』、『目からウロコの江戸時代』ほか

※1 上方では寺子屋、江戸では手習いと呼ばれることが多かった。授業料は一定しておらず、家庭の資力によっても異なっていた。

※2 目的地まで運んでくれる水上タクシーのような小船。

幹事報告

石月良典 幹事

◎11月16日(日)は地区大会です。ご出席会員の方はAM9:15までに地場産の方にお問い合わせ致します。

◎次週11月19日(水)の例会は地区大会振替で休会になりますので、お間違えのないようよろしくお願い致します。

ニコニコBOX

中村和彦さん

山岸さん、本日は卓話ありがとうございます。楽しみにしています。

斎藤弘文さん

素晴らしい旅行に参加して、お世話になりました。早退致します。

平原信行さん

銀行さんの旅行で下呂温泉、舟で行く大牧温泉と白山スーパー林道の旅で紅葉を楽しんできました。

荻根澤隆雄さん

例会をアウトドアで行っても良いくらいな天気です。

昨日は小江戸川越を散策して来ました。

野崎喜一郎さん

我が家の愛犬トイプードルが先月から元気ありませんでした。ようやく元気になってきました。今朝もシッポを振りながら散歩しました。一安心です。

樺山 仁さん

親善奨学生、山岸早瀬さんの卓話に期待して。

明田川賢一さん

ロータリー財団国際親善奨学生 山岸さん、ようこそいらっしゃいました。

石月良典さん、会田二郎さん、船越正夫さん、五十嵐昭一さん、石塚欣司さん、松永一義さん
藤田紘一さん、米山智哉さん

山岸さん、本日は卓話ありがとうございます。

若槻八十彦さん

親善奨学生、山岸さんを歓迎して。

小越憲泰さん

ボックスに協力して。

川瀬康裕さん

都合にて早退致します。

11月12日分 ￥ 19,000

今年度累計 ￥591,000

卓 話

国際親善奨学生帰国スピーチ

Make a little difference

—人生に、ちょっとした変化を—



2007-08年度 国際親善奨学生

山岸早瀬 さん

私は2007-08年国際親善奨学生として、三条北ロータリークラブの推薦で国際ロータリー1150地区、イギリスの南ウェールズに位置するRotary Club of Cardiffに派遣し

ていただきました。

2007年8月4日。ロンドンから高速バスで西に移動すること3時間半。ウェールズの首都カーディフに到着すると、受け入れ先のRotary Club of Cardiffのロータリアンの方がお迎えに来てくださっていました。初めてのことばかりで心細い中、どんなに安心したことでしょう。その後、1週間のホームステイを受け入れてくださったHockly夫妻のお宅まで送っていただきました。翌日には、ゴルフクラブのランチに招待していただき、1年間でお世話になる受け入れクラブの方々にお会いしました。

私はHockly夫妻のお宅に1週間ホームステイをしながら、これから大学院で学ぶ留学生向けの短期英語コースに通いました。このホームステイを通して、街の歴史や生活情報、イギリス人の生活、価値観といった様々な事を楽しく学ばせていただきました。Hockly夫妻はガーデニングが趣味で、よく紅茶を飲みながら世界情勢や環境問題について議論する、知的で物静かなご夫婦です。よく「イギリスの料理はまずい」と聞きますが、それは偏見です。「家庭料理」はおいしいのです。ご夫妻は、お食事にはお庭で採れたばかりの新鮮な野菜や果物を使い、大変おいしい家庭料理をご馳走してくださいました。ただし、私の1年間の滞在経験から、イギリスの外出は噂どおりあまり美味しくなかったことが理由の一つだと考えられるそうです。次に、イギリス人は物を大切にし、長く使います。例えば、お食事を出していただいた時のお皿は、ご家庭で代々受け継がれている物であったり、食器や調度品は歴史の重みを感じる美しいアンティークが多かったです。休日の過ごし方は色々ですが、イギリス人は自然を愛し、大切に守っています。野鳥の音が響く美しい国立公園での散歩やピ

クニック、お庭でホームパーティー、又はパブでサンデーランチと呼ばれる多めのご馳走を家族でゆっくり食べたりして過ごします。

ロータリーの活動としては、7つのロータリークラブでスピーチを行った他、国際交流イベントやチャリティ活動への参加などを行いました。9月には、24ヶ国から学びに来たイギリス全土のロータリー奨学生と共に、オリエンテーションに参加し、奨学生の責務について再確認しました。夜は現地ロータリアンと一緒に、イギリスの伝統ダンスを踊りました。国籍も年齢も違う人達が手を繋ぎ、大きな環を作りました。その時、「世界は1つ」と肌で感じ、目頭が熱くなりました。10月の地区大会では、ロータリー財団前会長のウィリアム B.ボイド氏が、世界平和とロータリーの意義について、熱心に語られました。その会場中に共有された、強い祈りと決意が、私の心にも共鳴しました。ステージから降りた前会長は、私と握手してくださいました。他にも、これらのイベントを通して、元ロータリー世界平和奨学生で、現在イラク救援活動を行っている日本人女性や、チャンマーで活動するイギリス人ジャーナリスト等、世界で活躍する国際人とお会いする貴重な機会を頂きました。同時に、自分が無力に感じ、悔しい思いもしました。

今の私には、ステージ上で世界平和を訴えることも、イラクに行くこともできません。しかしながら、私にできることを少しずつ実践してきました。学業に励む傍ら、新潟の文化について紹介するスピーチとバナー交換を行う等、週に1度はロータリーの活動に携わりました。全部で7つのロータリークラブでスピーチとバナー交換を行いました。派遣先のロータリークラブは、様々なチャリティ活動を行っていますが、私は地元のお祭りにスタンドを立てて、ロータリーの活動を人々に知ってもらうお手伝いをしました。お祭りの会場に建てられたテント内には、被災地に避難テントと非常食・生活用品をセットにした「シェルター・ボックス」を供給したチャリティの説明等が解り易く展示されていました。地元の人々が興味深そうに見に来てくださったり、お祭りに来たロータリアンの方々がちょっと立ち話にいらっしゃいました。イギリスのロータリーの活動に参加して感じたことは、いつも「楽しみながらチャリティを行う」という姿勢です。どんな活動でも、ジョークが飛び交い、皆がよく話し、よく笑っていました。他のロータリーを通した私の活動としては、今年のロータリーGSEプログラムの職業・文化研修先の国が偶然にも日本が選ばれたため、私はGSEチームのメンバー

に日本語や日本文化を教えるボランティアを行いました。自国の文化ながら、曖昧に理解していた部分が多いことに気付かされ、私自身の方が多くのことを学ばせていただけた体験でした。

学業・大学生活としては、カーディフ大学社会学部で教育学を学びました。様々な国から集まったクラスメイトと、プレゼンテーションやディスカッション等を通して互いに学び合う授業は、大変刺激的な経験でした。母国語以外での勉強は初めての経験で、苦労も多かったですが、課題論文の成績は、英語のネイティブスピーカーが半分いる中で、クラスで2番を取ることができました。修士論文としては、イギリスの大学では、授業資料や課題をすべてインターネット上でやりとりするなど、情報機器の教育的活用が日本よりも進んでいる点が興味深いと思い、「大学のe-ラーニング」をテーマに論文を執筆しました。研究の為に、在籍していたカーディフ大学を始め、オクスフォード大学、ケンブリッジ大学、ロンドン大学等の先生方に取材をしました。多くの方々へ協力していただき、無事論文を提出し終え、現在は卒業審査の結果を待っているところです。

勉強の息抜きも、ストレスの多い大学院留学には欠かせません。「仕事と遊びのメリハリをつけて効率良く!」、それがイギリス式です。初めの頃は図書館や部屋で勉強ばかりしていましたが、ロータリアンの方々に「気分転換にパブでお酒を飲みなさい」とパブに連れて行っていただいたり、「私は週末に勉強したことなど人生で一度も無い」、「旅行に行ったり、美術館や文化遺産を訪れるのも留学の醍醐味だよ」等と、イギリス式のアドバイスをいただき、様々なところへ連れて行っていただきました。

特に私は、ケルト文化を伝承するウェールズの神秘的で独特な文化に魅了され、勉強の合間に様々な文化遺産を訪れました。ウェールズには多くの城跡が残っています。「なんて美しい!」と言うと、一緒に訪ねたロータリアンの方に叱られてしまいました。「なぜウェールズにこんなにお城が多いのか知っている? これらは、ウェールズを征服するために作られたんだ。我々の先祖は、追い詰められ、苦しめられ、言語と文化を奪われたんだ」。私は、大変浅はかだったと反省し、観光ではなく、文化を学びたいと強く思いました。そこで、歴史を調べたり、イングランドにかつて「殺された言語」である、「ウェールズ語」を、それを母語とするロータリアンの方々から教えていただきました。結果、簡単な挨拶は言えるようになりました。また、興味深いことに、政府の方針で、ウェールズの公式な書類や標識は、全て英語とウェールズ

語の二重表記になっています。BBCウェールズは、ウェールズ語のテレビとラジオのプログラムを作っています。毎年夏に開催されるウェールズ芸術祭にもロータリアンに連れて行っていただきましたが、司会進行から歌や詩などのコンテストが全て特別にウェールズ語で行われていました。そこでお会いしたウェールズ語が第一言語のロータリアンの方々は、私にこう言いました。「ここは私たちの国よ! これは私たちの言語よ! なぜ日常で通じないの?」。「私たちはマイノリティだ。だから大声で叫んでいる。『おい、僕たちはここにいるよ!』と。そうしなければ、我々の文化は消えてしまう」。私は、ウェールズ人という文化的マイノリティの人々の気持ちに直に触れ、日本では未だにイングランドとウェールズの違いの認識が薄いことを非常に残念に思いました。

最後に、この留学全体を振り返ると、個人留学ではなく、ロータリーの奨学生として留学させていただけで、本当に良かったと思う点が多くあります。例えば、現地ロータリアンの方々と日常的に交流する機会が多くあり、日々の生活レベルでの現地の人々の考え方や文化に触れることができました。また、同じ年代や学生だけでなく、様々な職業や世代の人々と知り合えることができました。そして、常に「日本の代表」として扱われ、常に自国の文化を意識させられ、日本文化を世界にどう発信していくのかを、考えさせられました。時に国際人の一員になれたような達成感を得ることもあれば、自分が無知で恥ずかしくなり、悔しい思いをすることもありました。

あるロータリアンが、こうおっしゃいました。「なぜ私はロータリアンになったのか? それは、自分の人生と世界に、『ちょっとした変化』を与えるためだ」。おそらく私も、自分の人生をちょっと変えたい、世界をちょっと変えたい、そんな思いでこのプログラムに挑戦したのかもしれませんが。新潟大学の大学院を卒業し、そのまま就職し、それでも平穩に人生は終わったかもしれませんが。しかし、私はこのプログラムに参加していなければ、国際社会に生きる一員として、無知で悔しい思いをすることもなかったでしょう。日本以外に世界にはどんな人たちがいて、どんな文化や信念を持って生きているか、考えもせずに命を終えたでしょう。そして、留学中に流した感動の涙を、流すことも無かったでしょう。

今後は、国際理解に関するお仕事をしたいと思い、先日、日本語を世界で教えるための資格試験を受けたところです。私の1年間の国際親善奨学生としての経験は、今後の日本の国際化に役立てるのではないかと、現在将来の道を楽しく模索しているところ

です。

ロータリーの活動を通じた「人生のちょっとした変化」が集まり、日本を、世界を変えていけると信じています。そのような活動に参加させて頂けたことを、誇りに思います。素晴らしい経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。



2007年10月2日 Aberdare Rotary Clubにて初のスピーチとバナー交換



2008年8月9日 ウェールズの祭「Elsteddfod」にてロータリーの活動アピールのお手伝い。



2008年2月27日
RC Llandaff主催「International Night」



2008年9月21日 お別れ会

12月の行事予定

三条ロータリークラブ例会日

日	月	火	水	木	金	土
	1 ◆三条南RC 総会	2 ◆三条北RC 総会	3 ◆三条RC 総会	4 ◆三条東RC 総会	5	6
7	8 ◆三条南RC 卓話 AG事前訪問	9 ◆三条北RC 卓話 AG事前訪問	10 ◆三条RC 外部卓話 ロッテ観光 新潟事務所 所長 関口明美 様	11 ◆三条東RC 公式訪問 於 三条ロイヤルホテル (記帳できます)	12	13
14	15 ◆三条南RC 会員卓話 木原 崇 会員	16 ◆三条北RC ガバナー公式訪問 or 忘年家族会 於 三条ロイヤルホテル (記帳できます)	17 ◆三条RC 忘年家族会 PM6:30~ 於 新潟 ホテル新潟 (記帳できます)	18 ◆三条東RC 会員卓話予定	19	20
21	22 ◆三条南RC ガバナー公式訪問 or 忘年家族会 於 お乃 (記帳できます)	23 天皇誕生日 ◆三条北RC クラブ休会(祝日)	24 ◆三条RC 外部卓話 エフエム燕三条局 パーソナリティー 高野一美 様	25 ◆三条東RC クリスマス例会 於 三条ロイヤルホテル (記帳できます)	26	27
28	29 ◆三条南RC クラブ休会 (記帳できます)	30 ◆三条北RC クラブ休会 (記帳できます)	31 ◆三条RC クラブ休会			

※近隣RC例会変更のお知らせ!(記帳できます)

- 加茂RC ————— 12月18日(木) 夜例会 家族忘年会 於 わか竹
- 燕RC ————— 12月18日(木) 夜例会 クリスマス家族会

次週例会 12月3日 総会

次々週例会 12月10日 外部卓話 ロッテ観光新潟事務所
所長 関口明美 様

